モルモン書

生徒用学習ガイド

ご意見とご提案

本学習ガイドに関する皆様のご意見，ご提案をお寄せください。あて先は以下のとおりです。

Curriculum Planning
50 East North Temple Street, Floor 24
Salt Lake City, UT 84150-3200
USA
E-mail：cur-development@ldschurch.org

書面には，あなたの氏名，住所，ステーク，ワード（地方部，支部）名を明記してください。また，本学習ガイドのタイトルを必ず記載し，ガイドの長所，改善の余地のある点に関するあなたのご意見，ご提案をお書き添えください。

©1999 by Intellectual Reserve, Inc.
版権所有
印刷：日本

英語版承認－1996年8月
翻訳承認－1996年8月

原題：Book of Mormon Class Member Study Guide
Japanese

35684 300

はじめに

預言者ジョセフ・スミスは十二使徒との集会において，次のように「兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり，わたしたちの宗教のかなめ石である。そして，人はその教えを守ることにより，ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」（*History of the Church*, 4：461。モルモン書「序文」も参照）

本学習ガイドは，あなたがモルモン書を研究するための手引き書として作成された。この学習ガイドは番号で区分されているが，それぞれの番号は「モルモン書福音の教義コース」のレッスンに対応している。各課には1週間の読書課題とあなたの研究をいっそう充実したものとするための質問が設けられている。これらの質問は，聖文の応用についてあなたのレベルを引き上げるため，クラスの話し合いに積極的に参加するために活用することができる。

あなたは福音の教義クラスの教師とともに，レッスンを成功させる責任を分かち合っているのである。教師は「真理の御霊によって……宣べ伝える」必要があり，「真理の言葉」を受け入れる人々は「真理の御霊によってそれを受け入れる」べきであると主は言われた（教義と聖約50：17，19）。あなたが理解した事柄を紹介し，質問をし，適切な経験を分かち合い，証を述べ，教師と生徒の話に真剣に耳を傾ける準備をしたうえで，クラスに出席しなさい。本学習ガイドの読書課程を研究し，質問について深く考えることによって，あなたは主の次の言葉が成就する状態に自らを置くことができる。「説く者と受ける者が互いに理解し合い，両者ともに教化されて，ともに喜ぶのである。」（教義と聖約50：22）

本学習ガイドは，家族にとって貴重な資料となる。あなたは本書内の質問を活用し，家庭での福音に焦点を合わせた話し合いを促進することができる。また，各課には家族の話し合いのための提案が盛り込まれている。家庭の夕べのレッスンを準備する際，これらの提案を参照するとよい。

「わたしたちの宗教のかなめ石」 1

祈りの気持ちで，以下の聖句を研究する。1ニーファイ13：38－41；19：23；2ニーファイ25：21－22；27：22；29：6－9；モルモン8：26－41；エテル5：2－4；モロナイ1：4；10：3－5；教義と聖約10：45－46；20：8－12；84：54－58。モルモン書の序文もあわせて研究する。

- モルモン書のタイトルページの第2段落では，モルモン書の3つのおもな目的は何であると記されていますか。
- イエス・キリストについて，あなたはモルモン書からどのようなことを学んできたでしょうか。あなたのイエス・キリストに対する証は，モルモン書によってどのように強められたでしょうか。
- モルモン書で，あなたが特に強い印象を受けたのはどの聖句ですか。

家族の話し合いのための提案

以下のマリオン・G・ロムニー副管長の説教を家族で読む。

「家庭にあって両親が，夫婦として，また子供を交えて家族として，ともに祈りをもって定期的にモルモン書を読むようにす

るならば，家庭の中はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ，家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭の中はこれまで以上に敬虔な雰囲気に包まれ，一人一人が互いに尊敬し合い，関心を持つようになると思います。そして，いがみ合うようなことがまったくなくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを諭すようになり，子供たちは以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ，信仰と希望，キリストの純粋な愛が家庭や日常生活に満ちて，平和と喜びと幸福がもたらされることでしょう。」（「モルモン書」『聖徒の道』1980年9月号，102）

この勧告に従うときにあなたの家族にもたらされる祝福について話す。毎日家族が集まりモルモン書を研究するよう計画する。家族の一人一人にこの計画に従う責任を受けるよう励ます。

「御心のままに何でも」 2

1ニーファイ1－7章

- モルモン書に記されている最初の出来事の一つは，リーハイと彼の家族がエルサレムを出発したときの様子です。どうして彼らはエルサレムを出ることになったのでしょうか（1ニーファイ1：4－15，18－20；2：1－3参照）。
- エルサレムの民はなぜリーハイやほかの預言者たちの言葉を拒んだのでしょうか（1ニーファイ1：19－20；2：12－13；16：1－2参照）。どうして今日一部の人々は主と主の僕たちに背くのでしょうか。ニーファイは父の言葉をどのように受け止めたでしょうか（1ニーファイ2：16，19参照）。預言者の教えをさらに素直に受け入れるよう心の準備をすることについて，ニーファイからどんなことが学べるでしょうか。
- なぜリーハイの家族は真鍮の版を手に入れる必要があったのでしょうか（1ニーファイ3：3，19－20；4：15－16参照。1ニーファイ5：21－22；モーサヤ1：3－7も参照）。

1ニーファイ2－4章を研究する際，ニーファイとレーマン，レムエルの特徴を比較する。特に以下の聖句に着目する。1ニーファイ1：1；2：11－13，16，19；3：5，7，14－15，31；4：1，3

家族の話し合いのための提案

リーハイの家族がなぜ真鍮の版を必要としたのか話し合う。あなたが聖文を得ていることに感謝する理由について話す。その後家族の人々に，モルモン書を持っていない友人のリストを作成してもらう。それらの人々の一部または全員にモルモン書を渡す方法を，祈りの気持ちで考える。配布するモルモン書を家族一人一人に渡すとよい。

命の木の示現 3

1ニーファイ8－11章；12：16－18；15章

命の木の示現について研究する際，以下の象徴と意味について調べる。

命の木（1ニーファイ8：10；11：8－25）

命の木の実（1ニーファイ8：10－18，30；15：36。教義と聖約14：7も参照）

鉄の棒（1ニーファイ8：19－24，30；11：25；15：23－24）

暗黒の霧（1ニーファイ8：23－24；12：17）

汚れた水の流れ（1ニーファイ8：13，26，32；15：26－29）

大きく広々とした建物（1ニーファイ8：26－28，31，33；12：18）

- ニーファイは命の木を見せられたとき，その解き明かしを知りたいと求めました。（1ニーファイ11：8－11）。彼はその木が何を表すことを知ったでしょうか（1ニーファイ11：21－25参照）。ニーファイは何を見たことによって神の愛に対する理解が深まったでしょうか（1ニーファイ11：13－21，24，26－33参照。ヨハネ3：16も参照）。
- リーハイとニーファイは命の木とその実をどのように描写しているでしょうか（1ニーファイ8：10－12；11：8－9，23；15：36参照）。
- 示現の中で，リーハイは「無数の人々」を見たことを説明する（1ニーファイ8：21）。これらの人々は，命の木と実に対する姿勢に基づいて4つのタイプに分類することができる。1ニーファイ8：21－33を読み，これら4つのタイプについて調べる。これらのタイプは今日の世界において，どのような形で見受けられるでしょうか。あなたは，どのタイプに属していると思いますか。

家族の話し合いのための提案

家族に命の木の示現についていっそう理解してもらえるように次の活動を行う。

家族の一人に目隠しをし，何度か回転してもらう。目隠しは暗黒の霧を象徴していると説明する。その後救い主の絵を部屋のどこかに置く。目隠しをした家族の一人に，だれの助けも借りずに絵の所まで歩くようチャレンジを与える。絵の所まで直接歩いて行けないことがはっきりしたら，家族の一人に，糸（鉄の棒を象徴）の片側の端を持って絵のある場所に立ってもらう。別の人に糸のもう一方の端を持ってもらう。目隠しをした家族の一人に糸を持ち絵の所まで歩いてもらう。

「御霊に連れ去られたときに見たこと」 4

1ニーファイ12－14章

- 1ニーファイ12章では，ニーファイが自分の子孫とニーファイの兄弟たちの子孫の将来に関する示現について述べている。命の木の示現にあった幾つかの象徴（暗黒の霧，大きく広々とした建物，汚れた水の流れ）はどのようにニーファイの子孫の没落の前兆となっているでしょうか。
- ニーファイは「異邦人の国民の中に」何が設立されるのを見ましたか（1ニーファイ13：4－5参照）。大きな忌まわしい教会の創設者はだれでしょうか（1ニーファイ13：6参照）。
- 大きな忌まわしい教会は聖書に何をしたのでしょうか（1ニーファイ13：20－26参照）。それはなぜでしょうか（1ニーファイ13：27参照）。聖書の中では理解するのが難しくても，モルモン書の中では分かりやすくて貴い教義にはどのようなものがあるでしょうか。モルモン書はあなたが聖書をさらによく理解するうえ

で，または聖書に対するあなたの証を強めるうえでどのような助けとなってきたでしょうか。

- ニーファイは，末日に主の教会に属する会員は比較的少ないが，それでも彼らは大きな忌まわしい教会の迫害に打ち勝つ力を持っているのを見ました。ニーファイは神の聖徒たちが何によって武装しているのを見ましたか（1ニーファイ14：14参照）。どうすればあなたは「義と神の力とをもって……武装」することができるでしょうか。

家族の話し合いのための提案

1ニーファイ12－14章から聖句を選び，家族で読む。これらの章を研究する際，特にニーファイの預言に着目する。家族に聖文中の預言の箇所に印を付けるよう提案する。すでに成就した預言の一覧を作成する。

「真理に聞き従い，それを心に留める」 5

1ニーファイ16－22章

1ニーファイ16－18章を家族で読む。これらの章を研究する際，ニーファイがどのようにして従順，信仰，勇気を示したか調べる。どのようにしたらニーファイの模範に倣えるか考える。

- ニーファイの試練への対処の仕方は，彼の大部分の家族とどのように異なっていましたか（1ニーファイ18：16を1ニーファイ16：18－20，34－36；17：21と比較する）。わたしたちは試練に直面するときにつぶやきがちになりますが，どうしたらその性質を克服できるでしょうか。

神の戒めに従うことに関する以下の聖句を研究する。これらの聖句に印を付けるとよい。

1ニーファイ3：7　教義と聖約130：20－21
1ニーファイ17：3　アブラハム3：25
教義と聖約82：10

家族の話し合いのための提案

2種類のロープを用意する。一つはしっかりした状態のもの，もう一つは至る所が擦り切れているもの。しっかりした状態のロープを見せ，ロープがたくさんの糸から成っていることを説明する。ロープを成す糸がそれぞれしっかりと織り合わさっていることが大切であるのと同様，家族も一致することが大切であることを説明する。その後，擦り切れたロープを見せる。それぞれの糸が離れるとロープが弱まるように，家族も一致がなくなると弱まることを説明する。

1ニーファイ16－18章の話を読み返す。リーハイの家族一人一人の行動が，家族の一致にどのような影響を与えたか考える。家族がさらに一致するうえで何ができるか話す。

「自由と永遠の命を選ぶことも……自由である」 6

2ニーファイ1－2章

2ニーファイ1章には，リーハイが亡くなる直前に息子たちに与えた勧告が含まれていることを説明する。この章を研究する際，リーハイが息子たちに具体的にどのようなことをするように勧めたか，またもし彼の勧告に従った場合にどのような祝福を受けると約束したかを生徒たちに見つけ出してもらう。

2ニーファイ2章を研究する際，「自由」「行動」「選択」という言葉を探す。これら

の言葉を見つけたら，印を付けるとよい。これらの言葉の重要性について深く考える時間を取る。

- 2ニーファイ2：6－8を読む。あなたはどのようにして「これらのことを……知らせ」ることができるでしょうか。これらのことを知らせることが，贖罪に対するわたしたちの感謝を表すことになるのはなぜでしょうか。
- 2ニーファイ2：15－25を読んで，(1) 禁断の実を食べる前のアダムとエバに与えられていた状態と (2) 禁断の実を食べた後に彼らが経験した反対のものを探してもらう。アダムとエバの堕落によって反対のものが世にもたらされたことから，あなたはどのような祝福を受けているでしょうか（2ニーファイ2：23－27; モーセ5：10－12参照）。

家族の話し合いのための提案

宣教師はしばしば，モルモン書から明確な答えを得られる質問を受けることを説明する。家族に，以下の質問を受けた宣教師の役割を演じてもらう。2ニーファイ2章の聖句を使って以下の質問に答えてもらう。

1. あなたが，イエスは救い主であられると語るとき，それはどのような意味を表していますか（2ニーファイ2：5－10参照）。
2. なぜ神は地上で善も悪も容認されているのでしょうか（2ニーファイ2：11－13参照）。
3. たくさんの戒めは欲しくありません。イエスの教えに従ったら，わたしの自由は狭められないでしょうか（2ニーファイ2：26－29参照）。

「わたしは，これまでに自分がだれに頼ってきたかを知っている」 7

2ニーファイ3－5章

- 2ニーファイ3章を研究する際，預言者ジョセフ・スミスの教えについて調べる。ジョセフ・スミスの功績を通し，あなたはこれまでどのような祝福を受けてきたでしょうか。
- ニーファイは誘惑と罪に「取り囲まれている」と感じていたにもかかわらず，どのようにして希望を見いだしたのでしょうか（2ニーファイ4：18－25参照）。これまで受けてきた祝福を思い起こすことによって，困難な時期を通過する際どのような助けとなりますか。

家族の話し合いのための提案

2ニーファイ4：15－35の一部または全部を家族で読む。この箇所は，時折「ニーファイの詩篇」と称されることを説明する。この箇所は，ニーファイの心の奥底の気持ちを一部表している。ニーファイのように時々「〔自分〕自身のこと……を書き記す」のはなぜ大切なのでしょうか（2ニーファイ4：15）。折にふれて自分の気持ちを書き留めるよう家族に勧める。しばしば自分の気持ちを詩や賛美の歌で表現するとよい。

「おお，神の慈しみの何と深いことか」 8

2ニーファイ6－10章

2ニーファイ9章には，救いの計画の中心となる出来事であるイエス・キリストの贖罪について，ニーファイの弟ヤコブによる説教が記されている。この章にある教えを理解するために，肉体の死と霊の死という言葉について理解しておくことは有益であるこれらのテーマの説明については『聖句ガイド』「死」の項を参照する。

- 肉体の死と霊の死を克服するために救い主は何をなさったでしょうか（2ニーファイ9：5－7，12，21－22参照。ルカ22：44；モーサヤ3：7；教義と聖約19：16－19も参照）。
- ヤコブによると，わたしたちが「神の王国に救われ」る，つまり神の前に永遠に住むことを許されるためにしなければならない事柄には，何があるでしょうか（2ニーファイ9：18，21，23－24，39，41，50－52参照）。
- わたしたちが贖罪によってもたらされるすべての祝福を受けるうえで妨げとなる態度や行いにはどのようなものがあるでしょうか（2ニーファイ9：27－38参照）。
- ヤコブは，ニーファイの子孫は「不信仰のために肉において滅び」，エルサレムのユダヤ人は救い主を十字架につけ，自分たちの罪のために散らされることを預言しました（2ニーファイ10：2－6）。これらの人々が主を信じてその罪を悔い改めるとき，主はどのようなことを彼らのためになさるでしょうか（2ニーファイ10：2，7－8，21－22参照。1ニーファイ21：15－16； 2ニーファイ9：1－3，53，30：2も参照）。これはわたしたち一人一人にとってどのように当てはまるでしょうか。

以下の聖句にある個々の言葉や文章が，ヤコブが話した説教の内容をどれほど強めているか考える。

2ニーファイ9：10　　2ニーファイ9：28
2ニーファイ9：14　　2ニーファイ9：39
2ニーファイ9：18　　2ニーファイ9：51

家族の話し合いのための提案

家族で救い主が，個人または家族全体に行ってくださった事柄について話し合う。

「わたしは……イザヤの言葉を喜んでいる」 9

2ニーファイ11－25章

2ニーファイ11－25章のイザヤの教えを研究する前に，ボイド・K・パッカー長老の以下の説教を読む。

「モルモン書は神から与えられた書物です。イエス・キリストについてのもう一つの証であり，聖書に通じる言葉遣い，すなわち預言者に独特の言葉が出てきます。

新約聖書風の言葉遣いがかなり多くの箇所に出てきます。“SPOKE”の代わりに“SPAKE”，“TO”の代わりに“UNTO”が使われていますし，“IT CAME TO PASS”や“THUS”“THINE”などの表現も出てきます。

それほど読み進まないうちに，言葉遣いにも慣れ，モルモン書の物語が楽に頭の中に入ってくるようになります。

次第に読むのが楽しくなってきますが，やがて壁に突き当たります。言葉遣いが旧約聖書風になってくるのです。例えば，旧約の預言者イザヤの預言が書かれた章が幾つも続きます。これが壁となって立ちはだかります。覚悟のできていない気まぐれな

読者は，大抵ここで読むのをやめてしまいます。

皆さんも，ここでやめたいと思うかもしれません。でもやめないでください。やめてはいけません。旧約聖書を理解するためにも，これに負けずに進んでいくのです。あまりよく理解できないかもしれませんが，読み進めてください。よく理解できなくても，文字を追うだけでもよいですから，とにかく続けましょう。……

……主がイザヤの預言をモルモン書の中に入れられたのは，たとえそれが読者にとって壁になるとはいえ，目的があってのことだったのです。

イザヤの言葉を書いた章を乗り越えられない人は，得られるはずの宝を見逃しているのです。」（「わたしの心のこと」『聖徒の道』1986年7月号，60）

「主は，御自分のもとに……すべての人を招かれる」 10

2ニーファイ26－30章

2ニーファイ26－30章には末日についての力強い預言が載っていることを説明する。ニーファイはサタンに欺かれて真理から離れてしまう人々について預言した。しかし，ニーファイはまた，福音の回復と，義人に与えられる祝福についても予見した。

- 2ニーファイ28章に，人を欺くサタンの策略としてどのような例が記されていますか。これらの策略に打ち負かされないために何ができますか（例として，1ニーファイ15：24；2ニーファイ28：30；アルマ17：2－3；モロナイ7：15－19；教義と聖約21：1－6；46：7参照）。
- なぜ聖書に加えてモルモン書も研究しなくてはならないのでしょうか（2ニーファイ29：4－14参照。2ニーファイ28：30も参照）。

家族の話し合いのための提案

家族の一人に部屋の中央に立ってもらう。この実演では，中央に立っている人の右側の区域は人生で成し得る善い事柄を象徴し，そのさらに右側は成し得る最善の事柄を表す。一方，左側の区域は人生で犯す可能性のある悪い事柄を，そしてさらにその左側は最悪の事柄をそれぞれ示す。

リチャード・G・スコット長老は，これに類する，たとえを使ったレッスンを行ったことを説明する。スコット長老は次のように述べた。「中間の位置にいると，正しい事柄と誤った事柄を識別するのは困難です。この中間区域はサタンが義にかなった人々に働きかけを行う場所です。……この区域では混乱しやすくなります。ですから主が定められたすばらしい善の区域内で生活してください。そうすれば，誘惑に関して何も問題はないでしょう。皆さんが見たり，聞いたり，考えたり，または行ったりしてもいいか確信が持てない事柄があるときは，どうぞそれらを避けてください。サタンのわなの一つに陥りかねないからです。」（"Do What Is Right," *Ensign*, June 1997, 53－54）

この実演は，家族が日々遭遇する誘惑や選択にどのように応用できるでしょうか。

「キリストを確固として信じ……力強く進〔む〕」 11

2ニーファイ31－33章

- ニーファイは「キリストの教義について……述べ〔る〕」と語って，自分の最後の記録を書き始めました（2ニーファイ31：2）。2ニーファイ31章にあるニーファイの教えによると，「キリストの教義」はどのように定義されるでしょうか。

家族の話し合いのための提案

一緒に食事をする食卓を準備し，家族の食事を自分が準備すると伝える。家族が食卓に着いたら，普段よりずっと少ない量の食事を出す。そして以下の話し合いを進める。

- わたしたちの聖文研究とごくわずかな量の食事の摂取には，どのような結びつきがありますか。
- 2ニーファイ32：3を家族で読む。キリストの言葉をよく味わうとはどのような意味だと思いますか（2ニーファイ32：3）。どのようにして，個人と家族の聖文研究が満足できるものにできますか。

「神の王国を求めなさい」 12

ヤコブ1－4章

預言者ヤコブについてさらに研究するため，以下の聖句を読む。1ニーファイ18：7；2ニーファイ2：1－4；6：2－4；ヤコブ1：1－2，18－19。

- 預言者ヤコブは富への執着，高慢，不貞，人種的偏見について警告しました（ヤコブ2：12－16，22－23；3：5，9）。人々に悔い改めを呼びかけた後，ヤコブは贖罪を通して赦しを望めることを証して説教を終えました。ヤコブが述べているキリストによる希望を得るにはどうすればよいでしょうか（ヤコブ4：4－12参照）。

ヤコブは妻子を虐待するニーファイ人の男性を鋭く非難した（ヤコブ2：9，31－32，35参照）。末日の教会指導者もあらゆる種類の虐待に対して強い警告を発している。大管長会と十二使徒定員会は次のように警告している。「貞節の律法を犯す人々，伴侶や子供を虐待する人々，家族の責任を果たさない人々は，いつの日か，神の御前に立って報告することになります。」（「家族――世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号，24）

家族の話し合いのための提案

家族にヤコブ2：35を読んでもらい，以下の質問をする。

- わたしたちの言動で，人の心を傷つけるようなことはどのようなことでしょう。家庭にさらなる一致と愛をもたらすために何ができるでしょう。

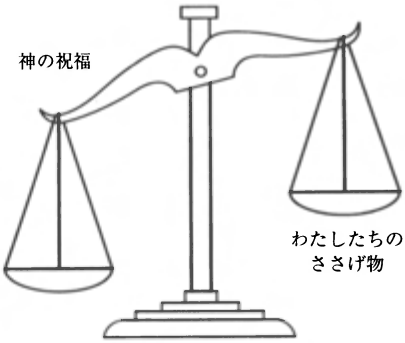
「天の御父にとこしえに恩を受けている」 15

モーサヤ1－3章

- ベニヤミン王の統治の間，聖文を研究したニーファイ人と，聖文を調べようとしなかったレーマン人との間にはどのような違いがあったでしょうか（モーサヤ1：5参照）。現在の社会においてこの違いはどのように反映されているでしょうか。
- モーサヤ2：20－21，34を読む。「天の御父にとこしえに恩を受けている……ふつつかな僕」とはどのような意味でしょうか。わたしたちは心から神をたたえ，神に仕えてもなお，神に対してふつつかな僕であるのはなぜでしょうか（モーサヤ2：22－25参照。本ページの図も参照）。これは，あなたに対して天の御父が抱いておられる愛についてどのようなことを教えているでしょうか。
- イエス・キリストの贖罪についてモーサヤ2－3章から何を学びますか。

家族の話し合いのための提案

1枚の紙に，右上の図のようなはかりの絵を描く。



なぜこのはかりはバランスが取れていないのか家族に尋ねる。その後，モーサヤ2：20－25を声に出して読む。わたしたちが主に差し出せるささげ物と主がわたしたちに与えられる祝福について調べる。はかりの絵で「わたしたちのささげ物」と書いてある側に，わたしたちのささげ物を列挙する。一方，「神の祝福」と書かれた側に神の祝福を列挙する。わたしたちは常に主に負債があることを家族が理解できるようにする。神の祝福に対するあなたの感謝の気持ちを述べる。

「あなたがたはキリストの子と呼ばれ」 16

モーサヤ4－6章

- ベニヤミン王はなぜ民が「無力な者」であり，ふさわしくない者であることを強調したと思いますか（モーサヤ4：5－8，11－12参照）。わたしたちが主に依存している存在であることを認めるのはなぜ大切でしょうか。
- ベニヤミン王の説明によれば，親は子供に対してどのような義務があるでしょうか（モーサヤ4：14－15参照）。
- ベニヤミン王は，助けを必要としている人の世話をするよう民に教えました（モーサヤ4：16－17，22）。もしわたしたちが助けの必要な人に手を差し伸べようとしないとすれば，なぜ「大いに悔い改める必要がある」のでしょうか（モーサヤ4：18－23参照）。どのような意味で，わたしたちは皆物乞いなのでしょうか（モーサヤ4：19－20参照）。
- 持ち物を分かち合うことのできない乏しい人に対して，ベニヤミン王はどのよう

オリーブの木のたとえ
ヤコブ5－7章

13

ヤコブ5章には，ゼノスの比喩が収められている。ゼノスはモルモン書に数回登場するヘブル人の預言者であった。比喩とは，一つのものあるいは出来事を描写するために別のものあるいは出来事を用いる，文学上創作された手法である。以下の表は，この比喩について理解を深めるうえで助けとなる。

象徴	意味
果樹園	世界
果樹園の主人	イエス・キリスト
栽培されたオリーブの木	イスラエルの家，主の聖約の民
野生のオリーブの木	異邦人（イスラエルの家に生まれなかった人々）
枝	人々
僕	預言者ならびに奉仕の業に召された人々
実	人々の生活または行い

家族の話し合いのための提案

ヤコブ5：61－72で述べている僕とは，福音を分かち合う末日聖徒を指すことを説明する（教義と聖約133：8）。家族が専任宣教師として，また日々の生活を通して福音を分かち合うにはどのように備えられるか話し合う。

「ある賢明な目的のために」
エノス，ジェロム，オムナイ，モルモンの言葉

14

- エノスはどのように祈ったと説明しているでしょうか（エノス1：2参照）。エノスは自分の経験をなぜ「苦闘」と呼んだと思いますか。赦しを求めたエノスの経験から，わたしたちは悔い改めについてどのようなことを学べるでしょうか。この話は祈りについてあなたに何を教えていますか。
- わたしたちはどのようにして救い主へ「自分自身を……ささげ物としてささげ」ることができるでしょうか（オムナイ1：26）。
- モルモンは短くまとめた神聖な記録全体の目的を何と述べているでしょうか（モルモンの言葉1：2，8参照。モルモン書のタイトルページも参照）。この目的を念頭に置いてモルモン書を読むことはなぜ大切なのでしょうか。

家族の話し合いのための提案

エノス書，ジェロム書，オムナイ書の著者は民の記録を保存し，付け加えていくよう命じられたことを説明する。末日聖徒も個人と家族の歴史を記すよう勧められている。先祖の日記があれば，その幾つかを家族で読む。個人と家族の歴史を記録することの大切さについて話し合う。

な勧告を与えているでしょうか（モーサヤ4：24－25参照）。あなたの経済状態にかかわりなく，物惜しみしない心を養うにはどうすればよいでしょうか。

- ベニヤミン王は民に対して，罪を避け，神に献身する決意を持ち続けるためには，思いと言葉と行いに注意を払わなければならないと教えました（モーサヤ4：29－30）。思いと言葉と行いとは，どのように関連しているでしょうか。
- ベニヤミン王が人々に語ったとき，主の御霊は人々にどのような影響を与えたでしょうか（モーサヤ5：2－5参照）。わたしたちが「悪を行う性癖をもう二度と持」たないとするならば，生活や人々との関係にどのような影響が表れるでしょうか。
- キリストの子になるとはどのような意味でしょうか（モーサヤ5：2，5－7参照）。「キリストの御名を〔自身に〕受け」るとはどのようなことでしょうか（モーサヤ5：8－11参照）。キリストの御名を心にしっかりと記しておくために，あなたには毎日どのようなことができるでしょうか（モーサヤ5：11－15参照）。

家族の話し合いのための提案

モーサヤ4：16－27を家族で読む。助けを必要とする人々に手を差し伸べるため，一緒にできる事柄について話し合う。奉仕プロジェクトを計画するとよい。また断食献金とその用途について話すとよい。

「聖見者は……同胞に大きな利益をもたらすようになる」 17

モーサヤ7－11章

モーサヤ7：11を研究する際，主から預言者，聖見者，啓示者として召された人々の勧告に従うことの重要性について教えている聖句を調べる。

- アンモンは聖見者の役割についてどのように説明したでしょうか（モーサヤ8：16－18参照）。アビナダイは聖見者の役割をどのように果たしたでしょうか（モーサヤ11章から具体例を調べる）。

時折，似たような状況にある二人の人物の比較により，聖文から新たな洞察が得られることがある。ノア王とベニヤミン王を比較対照するため，以下の表を用いる。

ノア王	ベニヤミン王
モーサヤ11：2	モーサヤ2：13
モーサヤ11：3－4，6	モーサヤ2：12，14
モーサヤ11：5，7	モルモンの言葉1：17－18

家族の話し合いのための提案

大管長会と十二使徒定員会は預言者，聖見者，啓示者であると説明する。末日の預言者，聖見者，啓示者は，わたしたちにとってどのように「大きな利益」となっているか話し合う。その後，最近の総大会での大管長の説教を読み直す。

「神御自身が……御自分の民を贖われる」 18

モーサヤ12－17章

モーサヤ12－17章を研究する際，アビナダイがノア王と祭司たちに伝えたおもなメッセージを調べる。このメッセージを伝えるため，アビナダイが死を甘んじて受け入れた理由について自問する。

- アビナダイは，祭司たちの「矛盾したことを言わせ」ようという試みを打破した後，祭司の一人からある聖句についての質問を受けました（モーサヤ12：19－24；イザヤ52：7－10も参照）。なぜ祭司たちはこの聖句を理解できなかったのでしょうか（モーサヤ12：25－27参照）。心を注いで理解しようとするとはどういう意味でしょうか。
- 戒めが「〔わたしたちの〕心に書き記され」るとはどういう意味でしょうか（モーサヤ13：11）。戒めが心に書き記されていると，それらに従う努力にどのような影響があるでしょうか。
- モーサヤ14章に引用されている預言から，救い主についてどのようなことが学べるでしょうか。
- アビナダイは説教の最後に，ノアと祭司たちに対し何をするように勧めましたか（モーサヤ16：13－15参照）。あなたはこの勧告を自身の生活にどのように応用できるでしょうか。
- 信仰ゆえに死を求められることは，わたしたちの身にはほとんど起こり得ないでしょうが，あなたはどのようにアビナダイの模範に従うことができるでしょうか。

家族の話し合いのための提案

アビナダイのように，非常に危険な状態にいたにもかかわらずイエス・キリストの贖罪のメッセージを伝えた人々を家族で列挙する（例として，使徒4：1－12；1ニーファイ1：18－20；モーサヤ18：1－2；ヒラマン13：1－7参照）。家族の中で，困難な状況にあって伝道活動を行った人がいれば，その人たちの経験について話す。家族に，そのような経験を日記に記録するよう勧める。

「主……のほかに，だれも彼らを救い出せなかった」 19

モーサヤ18－24章

モーサヤ18章にはバプテスマの聖約についての説明がある。この章を研究する前に，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の以下の説教を読む。

「聖約とは少なくとも二者間の契約および同意である。福音の聖約の場合，二者とは天の主と地の人である。人は戒めを守ることに同意し，主はそれによって彼らに報われることを約束される。」(in Conference Report, Oct. 1970, 91；or *Improvement Era* Dec. 1970, 26)

- わたしたちはバプテスマを受けるとき，どのようなことを行うと聖約しますか。（モーサヤ18：8－13；モロナイ6：2－3；教義と聖約20：37も参照）。わたしたちがバプテスマを受けてバプテスマの聖約を守るとき，主はどのようなことを行うと約束してくださいますか（モーサヤ18：10，12－13参照。2ニーファイ31：17も参照）。
- なぜ主はアルマの民が奴隷の状態にあったとき，リムハイの民のときよりも速やかに，また豊かに祝福されたのでしょうか（モーサヤ21：2－15をモーサヤ23：26－27；24：10－16と比較する）。このことはわたしたちの生活にどのように当

てはまるでしょうか。

- 「心楽しく忍耐して，主の御心にすべて従った」ときにわたしたちの重荷が負いやすいのはなぜでしょうか（モーサヤ24：15）。あなたが「容易に重荷に耐えられるように」，主はどのようにあなたを強めてこられたでしょうか。
- リムハイの民およびアルマの民から，罪の束縛から開放されることについて，どのようなことが学べるでしょうか（モーサヤ7：33；21：14；23：23；29：18－20参照。教義と聖約84：49－51も参照）。

家族の話し合いのための提案

前ページのバプテスマの聖約に関する質問について話し合う。家族ですでにバプテスマを受けている人に当時の思い出を話してもらう。

「もう心に苦痛を感じ〔ない〕」 20

モーサヤ25－28章；アルマ36章

モーサヤ25－28章とアルマ36章には，アルマと，モーサヤの息子たちの奇跡的な改心に関する記事が記されている。これらの章を研究する際，自身の改宗について深く考える時間を取る。

- なぜ「互いに……赦し合〔う〕」ことは大切なのでしょうか（モーサヤ26：31）。だれかを赦すことによって，またはだれかに赦されることによって，あなたはどのような祝福を受けてきたでしょうか。
- なぜ主は天使を遣わし，息子アルマとその仲間たちに語らせられたのでしょうか（モーサヤ27：14参照）。愛する人が福音から離れてしまったとき，祈りはどのようにわたしたちを助けてくれるでしょうか。

モーサヤ27章およびアルマ36章のに注目し，赦しを受ける前と受けた後のアルマの気持ちを比較している言葉と文に注目する（例として，モーサヤ27：29参照。アルマは罪の赦しを受ける前は，「永遠の苦痛に責めさいなまれ」たが，赦しを受けた後は，「もう心に苦痛を感じ」なくなった）。

家族の話し合いのための提案

家族に以下の質問をする。

- 伝道に出る備えをする際に考えなければならないことで，最も大切な事柄は何でしょう（どこで働くかということより，なぜ，またどのように働くかということの方が大切であることを家族が理解できるようにする）。

家族にモーサヤ28章を開いてもらう。この章は，モーサヤの息子たちに関する記事が収められ，彼らはレーマン人の間で宣教師として働くのを望んだことを説明する。

- なぜモーサヤの息子たちはレーマン人に教えを説くことを望んだのでしょうか（モーサヤ28：2－3参照）。わたしたちはどのようにして福音を分かち合う決意を強められるでしょうか。

「アルマは……義にかなった裁きを行った」 21

モーサヤ29章；アルマ1－4章

モーサヤ王のすべての息子たちが王位の継承を断ったとき，モーサヤは民の中に書面による布告を送り，彼の死後用いるための，王による統治に代わるさばきつかさの制度を提案した。モーサヤ29章を研究する際，モーサヤ王がどのように「この民の平和に役立」てるような指導者について教えたか考える（モーサヤ29：10）。

- さばきつかさの統治の第1年に，ニーホルという名前の男が裁判を受けるためにアルマの前に連れ出されました（アルマ1：1－2，15）。ニーホルは民にどのようなことを教えていましたか（アルマ1：3－4参照）。その教えはどのような影響を及ぼしましたか（アルマ1：5－6参照）。なぜニーホルの教えはこれほど多くの人々にとって魅力があったのだと思いますか。これらの教えのうち，今日どれを耳にしたことがありますか。
- 民の高慢と罪悪が増すことに対して，アルマは何をしましたか（アルマ4：15－19参照）。神の言葉を宣べ伝えることは，どのように「〔民〕の義務を思い起こすように促す」ことができるのでしょうか。神の言葉を宣べ伝えることは，どのように高慢，悪巧み，争いを「取り除く」ことができるのでしょうか。

家族の話し合いのための提案

アルマ4：15－20を家族で読む。その後以下の質問をする。

- アルマは「純粋な証をもって責める」以外に人々を助ける方法がありませんでした。それはなぜだと思いますか。福音を宣べ伝えることや福音に添って生活することによって，今日のどのような問題を解決できるでしょうか。

「あなたがたの顔に神の面影を受けているか」 22

アルマ5－7章

アルマ5章には40以上の質問が含まれている。これらの質問を調べ，あなたならどのように答えるか深く考える。

- ゼラヘムラの民への説教全体を通じて，アルマは心の「大きな変化」を経験することと「神から生まれ〔る〕」ことについて話した（アルマ5：14）。この経験について話すとき，しばしば改心という言葉が用いられる。改心するとはどういう意味でしょうか（モーサヤ5：2；27：24－26）。

家族の話し合いのための提案

家族でアルマ5：14，19を読む。

英語のcountenance（日本語訳「顔」）という言葉は，人の振る舞い，あるいは顔にその人の性格が表れるということを示す。

- 「自分の顔に神の面影を刻まれ」るとはどのような意味だと思いますか。自分の「顔に神の面影を受けている」人はどのような人でしたか。

「証する証人が一人にとどまらながった」 23

アルマ8－12章

- ギデオンとミレクの人々の間で教会の秩序を確立した後，アルマはアモナイハの地へ行って教えを説いた。彼はアモナイハでどのようなチャレンジに直面しましたか（アルマ8：8－9参照）。
- アルマ8：10のどの言葉が，アモナイハにおけるアルマの努力の力強さを述べていますか。アモナイハの民はアルマの教えにどのような反応を示しましたか（アルマ8：11－13参照）。

アルマ8：18－32とアルマ10－11章を研究する際，アミュレクが天使の言葉に従い，アルマの同僚として働くことによってどのように変わったか調べる。

- 心の状態は神の言葉の理解するうえでどのように影響するでしょうか（アルマ12：9－11参照）。神の言葉を認識し，理解し，受け入れる心をはぐくむにはどうすればよいでしょうか（1ニーファイ2：16；15：11参照）。

家族の話し合いのための提案

アルマが一人でアモナイハの町に行ったとき，人々は「神は何者なので……この民に……権能を持つ者をたった一人しか送らないのか」と言ったことを説明する（アルマ9：6）。人々は後に，アミュレクが自分たちに教えを伝えたとき，「証人が一人にとどまらなかったので」驚いた（アルマ10：12）。家族で以下の表の聖句を読む。アルマとアミュレクが似たような教義を教えることにより，互いの働きをどのように支え続けたかに注目する。

教義	アミュレクの証	アルマの証
贖罪	アルマ11：40	アルマ12：33－34
悔い改め	アルマ11：40	アルマ12：24
裁き	アルマ11：41	アルマ12：14
復活	アルマ11：41－42	アルマ12：24－25

- 福音を分かち合うとき，二人以上の証人がいることはどのような利益となるでしょうか。これらの取り組みにおいて，わたしたちはどのように互いに支え合うことができるでしょうか。

「キリストを信じるわたしたちの信仰に応じて……力をわたしたちにお与えください」 24

アルマ13－16章

アルマはゼーズロムとアモナイハのそのほかの人々に贖いの計画について教えた後，神権と予任の教義について証した。アルマ13：1－7の研究に関連して，以下の引用を読む。

預言者ジョセフ・スミスは次のように述べている。「世に住む人々を教え導く召しを受けるすべての人は，この世が存在する前に天上の大会議においてまさにその目的のために聖任を受けた。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, sel. Joseph Fielding Smith［1976］, 365）

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように教えている。「この地上に来る以前，忠実な男性が神権にかかわるある種の責任に予任されていたのと同じように，忠実な女性にも何らかの責任が与えられていました。それが何であったのか今は覚えていな

くても，かつてわたしたちが同意した栄えある事柄を変えることにはなりません。皆さんには，わたしたちが預言者や使徒として支持している人々と同じように，前世で与えられた務めを果たす責任があるのです。」（「義なる女性の役割」『聖徒の道』1980年3月号，141）

- アルマとアミュレクは牢の中で何日間も迫害を受けた後，最後にどのように救い出されましたか（アルマ14：26－29；エテル12：12－13参照）。わたしたちはどのような事柄から救い出される必要があるでしょうか。わたしたちを救い出してくれる信仰がキリストを中心としたものでなければならないのはなぜでしょうか（モーサヤ3：17；モロナイ7：33参照）。
- アルマ15：3－5から，ゼーズロムのアルマとアミュレクへの信頼についてどのようなことが分かるでしょうか。癒されるために，ゼーズロムはだれに信頼を置かなければなりませんでしたか（アルマ15：6－10参照）。ゼーズロムの癒された後の行動から，何を学べるでしょうか（アルマ15：11－12参照）。

家族の話し合いのための提案

アルマ13－16章全部または一部を読み直した後，この箇所から学んだ事柄について家族一人一人に分かち合ってもらう。

「彼らは……神の力と権能をもって教えた」 25

アルマ17－22章

- レーマン人に真理を悟らせる働きにおいて，アンモンとその兄弟たちを成功に導いたものは何だったでしょうか。伝道活動に対するアンモンとアロンの取り組みから，何を学べますか。
- アンモンとアロンは，ラモーナイ王とその父にどの教義を教えましたか（アルマ18：34－39；アルマ22：7－14参照）。
- ラモーナイの父は神を知るためにどのような犠牲を進んで払う用意がありましたか（アルマ22：15，17－18参照）。彼の模範から，あなたはどのようなことが学べるでしょうか。

アルマ17－22章を研究する際，試練に耐えた後に祝福を受けた人々の話を探す。試練を忠実に耐えた後に受けた祝福について深く考える。

家族の話し合いのための提案

幾つかの異なった器具または道具を見せる。それぞれの器具（または道具）の用途を家族に説明してもらう。その後，アルマ17：1－9を読み，わたしたちは福音を人に分かち合うことによって，モーサヤの息子たちと同様，「神の手に使われる者」となれることを指摘する。わたしたちは主の手に使われる者となるよう努力するとき，主から助けがもたらされることを強調する。

「主に帰依した」 26

アルマ23－29章

アルマ23－27章では，アンタイ・ニーファイ・リーハイ人という人々について述べられている。彼らは非常に深く主に帰依したために聖文に「二度と道を踏み外さなかった」（アルマ23：6）と記されている。この箇所を研究する際，アンタイ・ニーファイ・リーハイ人の改宗が真実かつ心からのものである根拠を調べる。

- アンタイ・ニーファイ・リーハイ人は「主に帰依し」ました（アルマ23：6）。なぜイエス・キリストがわたしたちの改宗の中心であることが不可欠なのでしょうか。
- 改宗したレーマン人は，自分たちを邪悪な状態にとどまった同胞たちと区別することにしました（アルマ23：16－18；27：27－30参照）。わたしたちは改宗するとき，どのように世と区別されるでしょうか。
- アンタイ・ニーファイ・リーハイ人は苦難にかかわらず，何に感謝しましたか（アルマ24：7－10参照）。神への感謝は試練や苦難に直面するときどのような助けとなるでしょうか。
- アンタイ・ニーファイ・リーハイ人は「自分たちの剣……を取って……地中深く埋めてしま」いました（アルマ24：15－17）。彼らが単に武器を使わないと約束せず，それらを埋めてしまったことはなぜ重要だったのでしょうか。わたしたちの謀反に使う武器を埋めるために，どのようなことができるでしょうか。

アルマ26－27章を研究する際，宣教師がその働きによって得る祝福の例を調べる。

家族の話し合いのための提案

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人の改宗について触れる。話し合いを進めるため，本課の質問を活用することを考える。その後，家族に改宗に関する以下の聖句を全部または一部読んでもらう。

ルカ22：32　　アルマ5：7－14
モーサヤ5：2　　3ニーファイ6：14
モーサヤ5：7　　3ニーファイ9：13－14

「万物は神がましますことを示している」 27

アルマ30－31章

アルマ30－31章を研究する際，エズラ・タフト・ベンソン大管長の以下の説教を心に留める。

「〔モルモン書は〕キリストの敵をあばく……。モルモン書中の背教者のタイプは，今日のそれによく似ている。わたしたちが誤りを見抜き，今日の誤った教育や政治，宗教，哲学などの概念といかに闘ったらよいかその方法を知ることができるように，神は実に無限の先見の明をもってモルモン書を備えられたのである。」（「モルモン書は神の御言葉」『聖徒の道』1975年8月号，366－367）

- コリホルが神の存在についてのしるしを求めたとき，アルマは神が生きておられることの証拠としてどのようなしるしを持ち出しましたか（アルマ30：44参照）。これらの証拠はあなたの信仰を強めるうえでこれまでどのような助けとなってきたでしょうか。

アルマ31章を研究する際，ゾーラム人の祈りをアルマの祈りと比較する。相違点に注目するとよい。

家族の話し合いのための提案

コリホルの教えと似た考えは，今日の

人々も時々提唱していることを説明する。それから，以下の質問について話し合う。

- わたしたちの信仰を打ち砕こうとする人々の影響に立ち向かうには何ができますか（以下の答えが考えられる。聖文を研究する，祈る，争いを避ける，親，監督，その他の信頼できる友人に話す）。

「御言葉がキリストの内にあって救いに至らせる」 28

アルマ32－35章

- アルマは神の言葉を一粒の種にたとえました（アルマ32：28）。心の中に神の言葉を植えるための「場所を設け」るには，何ができるでしょうか。
- アルマ32：28－35を読む。言葉が「心の中でふくら」むのを感じるとはどういう意味だと思いますか。聖文はどのようにあなたの心を広げ，理解力に光を注ぎ，心を高めるでしょうか。あなたは神の言葉からどのようにすばらしさを味わってきたでしょうか。
- アルマの説教を聞いた後，人々は「どのような方法で信仰を働かせ始めればよいのか」知りたいと望みました（アルマ33：1）。アルマは預言者ゼノス，ゼノク，およびモーセのイエス・キリストに関する教えを引用して答えました。これらの教えの中心となるメッセージは何ですか（アルマ33：3－22）。

アルマ33：19－22を研究した後，民数21：4－9，ヨハネ3：1－16，1ニーファイ17：41，アルマ37：46，ヒラマン8：13－15を読む。これらの聖句を幾つか組み合わせて研究することにより，聖句を個々に学ぶより深い洞察を得られるような方法を考える。

家族の話し合いのための提案

神の言葉を心の中に養い育てるというアルマのメッセージを（アルマ32：28－43），家族が視覚化できるようにするため，家族一人一人に1粒の種と土の入った小さな容器を渡す。種を植え，水と日光を与え，種がよく育つようにする。2，3週間，種がどのように育つか観察する。

「わたしの言葉に耳を傾けなさい」 29

アルマ36－39章

- アルマ36－39章には，アルマが息子のヒラマン，シブロン，コリアントンに語ったままの証が載せられています。子供たちにとって，親が証を述べるのを聞くことはなぜ大切なのでしょうか。あなたはこれまで親の証からどのような影響を受けてきたでしょうか。

以下の聖句を改めて学ぶ。これらの聖句は，親が子供に与える勧告の重要性について示している。

アルマ36－39章　　アルマ57：21，26－27
2ニーファイ1－3章　ヒラマン5：5－14
エノス1：1－3　　教義と聖約68：25－28
モーサヤ1：1－8　　教義と聖約93：39－50
アルマ56：47－48

- アルマ37：36－37の勧告に従おうと努力することにより，あなたの生活はどのような影響を受けてきたでしょうか。
- コリアントンの罪深さはどのようにほかの人々に影響しましたか（アルマ39：11，13参照）。教会員が良い模範を示すことはなぜ大切なのでしょうか。あなたの行動は，ほかの人々の教会についての考えにどのように影響すると思いますか。

家族の話し合いのための提案

家族にアルマ37：6－7を読んでもらう。それから，釘，ボルトまたは物をつなぎ止める小さな部品を見せる。

- この部品は，どのような点で「小さな，簡単な」ことですか。大いなることを成し遂げるため，この部品はどのように用いられますか。この部品がなければ，どうなりますか。
- 家族をつなぎ止める「小さな，簡単な」ものには何がありますか。家族が天の御父，イエス・キリスト，そして互いに愛を示すための「小さな，簡単なこと」には何がありますか。

「偉大な幸福の計画」 30

アルマ40－42章

- 死と復活の間，わたしたちの霊はどうなりますか（アルマ40：11－15，21；教義と聖約138も参照）。
- 正義だけの支配下にあると，わたしたちはどうなりますか（アルマ42：14参照）。正義の要求が満たされてわたしたちが天父の前に戻って住めるようにするには，何が必要ですか（アルマ42：15参照）。イエス・キリストの贖罪はどのようにして「正義の要求を満た」したでしょうか（モーサヤ15：7－9参照）。神の憐れみのすべてを受けるためには，わたしたちは何をしなければならないでしょうか（アルマ42：13，23，27，29－30参照。アルマ41：14；教義と聖約19：15－18も参照）。

家族の話し合いのための提案

家族がアルマ42章を理解できるようにするため，ボイド・K・パッカー長老による，仲介者に関するたとえを読む。この話は，『福音の教義』（31110 300）の第12章に収められている。語り手，借り主，貸し主，借り主の友人を，家族内でそれぞれ別の人に読んでもらうとよい。

「確固としてキリストを信じた」 31

アルマ43－52章

アルマ43－52章には，戦争に関する記事が幾つか収められている。これらの記事から，現世での戦いにどのように対処すればよいか，またサタンとの戦いにおいて自身と家族とを守る方法について学べる。

- 戦争のときに義にかなったニーファイ人の態度や行動を決定した以下の原則について考える。今日これらの原則を理解して応用することは，世界により大いなる平和をもたらすうえでどのような助けとなるでしょうか。あなたの生活における戦いに対処するうえで，これらの原則はどのように応用できるでしょうか。
  a. 自己防衛など，義にかなった理由のためだけに戦う（アルマ43：8－10，29－30，45－47；48：14）。
  b. 敵に対して憎しみを持たない；自分のためと同様に相手のためをも思う（アルマ43：53－54；44：1－2，6）。
  c. 義にかなって生活し，神を信頼する（アルマ44：3－4；48：15，19－20）。
  d. 義にかなった賢明な指導者に従う（アルマ43：16－19；48：11－13，17－19。教義と聖約98：10も参照）。

家族の話し合いのための提案

自由の旗を掲げた司令官モロナイの話を読む（アルマ46：12－20）。それから，家族の自由の旗を自分たちで作る。家族に，キリストの御名を自身に受けることを思い起こし，励ましを与えてくれる重要な原則を2，3挙げてもらう。それらの原則を家族の自由の旗に見立てた大きな紙に書き写す。家族の自由の旗に書いたそれらの原則に従って生活するよう，家族に勧める。

「彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めた」 32

アルマ53－63章

アルマ53章および56－58章を研究する際，2,060人の青年兵士たちが従った原則と，彼らが青少年のころに培った特質を調べる。この青年兵士たちが主から力を得るうえで，これらの原則，特質がどのような助けとなったか特に注目する。これらの原則を自分の生活に実践できる方法を定める。

- このような偉大な信仰と勇気を持つことを，アンモン人の青年兵士たちはだれから学んでいたのですか（アルマ56：47－48参照。アルマ53：21；57：21も参照）。子供たちが親の証の強さと確かさを知ることはなぜ大切なのでしょうか。

母親の務めについての以下の聖句を研究する

アルマ56：47－48　　サムエル上1：27－28
創世24：60　　箴言1：8
出エジプト20：12　　モーセ4：26

- アンモン人の青年たちは預言者ヒラマンに自分たちの指揮官となるよう依頼しました（アルマ53：19；56：1，5）。彼らは与えられた号令にどのように応じましたか（アルマ57：21参照）。預言者の教えに対し，「そのとおりに」従うために，あなたは具体的にどのようなことをしなければならないでしょうか。

家族の話し合いのための提案

ヒラマンの2,060人の若い兵士について話す（アルマ53；56－58）。それから，以下に列挙された聖句の全部または一部を家族に読んでもらう。これらの聖句で教えられている原則を家族でどのように実践できるか話し合う。

アルマ53：20－21　　アルマ57：25－27
アルマ56：45－48　　アルマ58：6－11
アルマ57：21　　アルマ58：39－40

話し合いの一部として，「ニーファイのように」（『子供の歌集』92－93）を歌うとよい。

「堅固な基」 33

ヒラマン1－5章

ヒラマン1－4章には，ニーファイ人とレーマン人との間の平和と争いの期間について述べられている。ヒラマン5章では，レーマン人とニーファイ人の離反者たちの中で起こった，奇跡的な伝道についての話が書かれている。これらの聖句を学ぶとき，聖句の内容を今日の状態と比較してみる。

- 迫害に対し，キリストに謙遜に従う人々はどのような反応を示しましたか（ヒラマン3：33－35参照）。彼らの模範はあなたにとってどのような助けとなるでしょうか。
- ヒラマン5：12を読む。キリストの岩の上に築くとはどのような意味でしょうか（3ニーファイ14：24－27も参照）。

モルモン書の中で，「覚える」またはそれ

に類する語（思い起こす，思い出させる，忘れないなど）は240回以上用いられている。そのうちの15例をヒラマン5章から見つける。その際に，覚えるという言葉は主の聖約の民にとってなぜ大切なのか考える。

家族の話し合いのための提案

ヒラマン5：12を声に出して読む。それから，家族がイエス・キリストという岩の上に土台を築く方法について話し合う。

話し合いの一部として，「主の御言葉は」（『賛美歌』46番）を一緒に歌う。

「どうしてあなたがたは……神を忘れることができたのが」 34

ヒラマン6－12章

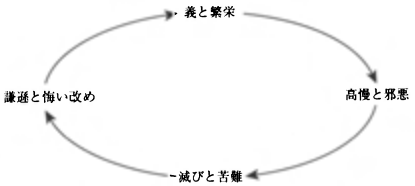
ヒラマン6－12章では，高慢の罪が人々にどのような影響を及ぼすか示されている。この箇所を研究する際に，以下の「家族の話し合いのための提案」で述べられているサイクルに注目する。

- ヒラマン12：7を読む。どのような原則に基づいて，モロナイはこのように述べたのでしょうか（ヒラマン12：1－6，8参照）。

家族の話し合いのための提案

右上の図を一枚の紙に描く。

モルモン書には，このサイクルを経験した人々について幾つかの例が掲載されていることを説明する。



- このサイクルを打ち破るにはどうすればよいでしょうか（家族でアルマ62：48－51；ヒラマン12：23－24を読む）。

紙に書かれた「高慢と邪悪」から「滅びと苦難」にかけて線を引く。わたしたちはニーファイ人の過ちから学べることを指摘する。わたしたちは繁栄しているときでも，謙遜で感謝の心をもって常に主を覚えることができる。

「悔い改めて，主……に立ち返る」 35

ヒラマン13－16章

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語った。「第三ニーファイには，救い主が訪れられる直前の時代のニーファイ人の歴史が記されていますが，当時とわたしたちが再臨を待ち望んでいるこの時代の間には，数多くの共通点が見られます。」（「アメリカへのキリストの訪れ」『聖徒の道』1987年7月号，4）

次ページの表には，ヒラマン13－16章に記されているイエス・キリストの再臨に先立つしるしや出来事に類似する預言や出来事が示されている。

ヒラマン13－16章に記されている預言と出来事	預言または出来事	再臨に先立つしるしと出来事
ヒラマン16：1，3，6，10	少数の力強い義人	1ニーファイ14：12；ヤコブ5：70
ヒラマン16：13－14	あふれる霊と奇跡	ヨエル2：28－30；教義と聖約45：39－42
ヒラマン13：22；16：12，22－23	ひどい罪悪	2テモテ3：1－5；教義と聖約45：27
ヒラマン13：2，6，8，10－11；14：9，11；15：1－3，17；16：2	主の預言者と悔い改めの呼びかけの拒絶	教義と聖約1：14－16
ヒラマン14：3－4	暗闇のない夜の預言	ゼカリヤ14：7
ヒラマン14：5－6，20	天のしるしと不思議の預言	ヨエル2：30－31；教義と聖約45：40
ヒラマン16：13－18	しるし，不思議，キリストの来臨の否定	2ペテロ3：3－4；教義と聖約45：26

家族の話し合いのための提案

家族でこの表の一部または全部を研究する。この表がどのように人々を再臨に備えさせる助けとなるかを，家族一人一人に尋ねる。

「明日，わたしは世に来る」

3ニーファイ1－7章

36

- サムエルの預言の成就を待つ一方で，「信じていた人々は……非常に悩み始め」ました（3ニーファイ1：7）。彼らの悩みの原因にはどのようなものがありましたか（3ニーファイ1：5－9参照）。信仰に対するこれらのチャレンジにもかかわらず，信者たちは何をしましたか（3ニーファイ1：8参照）。チャレンジに遭ったときにも確固とした信仰を持ち続けるためには何ができるでしょうか。
- 3ニーファイ3：12－16を読む。この箇所には，ニーファイ人がガデアントンの強盗団の攻撃に備えた様子が記されている。危険に際してのニーファイ人の行動から，誘惑や恐れのときに自分を守るうえで役立つこととして，何が学べるでしょうか。
- もし忠実であり続けていたならば，すべての人々はどのような祝福を享受することができていたでしょうか（3ニーファイ10：18－19参照）。

家族の話し合いのための提案

家族で3ニーファイ5：13を読む。この節には預言者モルモンの言葉が記されていることを示す。それから以下の質問をする。

- イエス・キリストの弟子であることはどういう意味を持つでしょうか。（イエス・キリストに従うこと）。個人として，また家族として救い主に従うために行える事柄は何でしょうか。

話し合いの一部として，「われに来よ」（『賛美歌』66番），「さらに聖くなお努めん」（『賛美歌』74番），「イエス様のように」（『子供の歌集』40－41）を歌うとよい。

「わたしは来る者をだれでも受け入れよう」 37

3ニーファイ8－11章

預言者サムエルは救い主のはりつけに関するしるしについて預言していた。ヒラマン14：20－27からサムエルの預言を読む。それから3ニーファイ8－9章を研究し，成就した預言を見つける。

- 滅びを免れ生き残った群集に対して，主はどのように招かれましたか。（3ニーファイ9：13－14参照。14節では来るという言葉が3回使われていることに注目する。）この招きを受け入れるには，何ができるでしょうか。
- 群衆は「一人ずつ」救い主のもとに進み出た（3ニーファイ11：15；3ニーファイ17：25も参照。ここでは群集の人数は2,500人であったと述べられている）。ここでの救い主の愛の模範から何が学べるでしょうか。
- イエスは，民の中に「決して論争があってはならない」とお教えになりました（3ニーファイ11：22，28）。福音の教義についての論争はなぜ危険なのでしょうか（3ニーファイ11：29；教義と聖約10：62－62参照）。真の教義において一致するにはどうすればよいでしょうか。

家族の話し合いのための提案

家族で3ニーファイ11：1－17を読む。家族に，復活された主が御姿をニーファイ人に現されたとき，自分がニーファイ人の中にいたらどのように感じていたと思うか尋ねる。

「古いものは廃されて，すべてのものが新しくなったのである」 38

3ニーファイ12－15章

3ニーファイ12－15章に記されている救い主の教えを研究する際，あなたが特に必要とする教えを見つける。

イエスはニーファイ人に，「わたしはあなたがたを地の塩とする」と語られました（3ニーファイ12：13）。この声明について理解を深めるために，以下の聖句を読む。各自の聖典に印を付けるとよい。

レビ2：13　　教義と聖約101：39－40
マタイ5：13　　教義と聖約103：9－10

- 3ニーファイ12：48を読む。わたしたちが完全になるためにはイエス・キリストの贖罪が必要なのはなぜでしょうか（2ニーファイ2：7－9；3ニーファイ19：28－29；モロナイ10：32－33参照）。

家族の話し合いのための提案

調理する際に通常，塩を使う食物を家族に与える。その食物に塩を使ったものと塩を使わなかったものとをそれぞれ家族全員に与える。すると家族は，その食物の自然の味が塩でどれほど引き立つのか分かる。

真っ暗な部屋で，懐中電灯やろうそくの灯をつける。

この実演の後，「地の塩」または「民の光」となる意味について話し合う（3ニーファイ12：13－14）。

「見よ，わたしの喜びは満ちている」

3ニーファイ17－19章

39

3ニーファイ17－19章を研究する際，イエスの愛が示されている聖句を探す。自分の気持ちを日記に記録するとよい。

- なぜイエスは民のところに「もうしばらくとどま」られたのでしょうか（3ニーファイ17：5－6）。このことは，主が抱いておられる民への愛をどのように表しているでしょうか。あなたは，自分に対するイエスの愛と関心をどのように感じていますか。
- イエスはニーファイ人の中に聖餐を定められました。3ニーファイ18：1－11の聖餐の儀式についてあなたは何を学ぶことができますか。あなたは毎週聖餐にあずかるためにどのような準備をすることができますか。
- イエスは「あなたがたの家族の中で，……父に祈りなさい」と教えられました（3ニーファイ18：21）。家族の祈りによりあなたの家族はどのような影響を受けてきましたか。毎日家族で祈るという決意は，家族でどのようにして強めていくことができるでしょうか。

聖文を声に出して読むことにより，黙読では気づかないかもしれない教義や出来事について，洞察を得ることができる。3ニーファイ17章を声に出して読む。その際，御霊の影響に注意を払う。あなたにとって特に意義のある聖句に印を付けるとよい。

家族の話し合いのための提案

救い主はニーファイ人と過ごされた最初の2日間，子供に教えを述べられた。家族で3ニーファイ17：11－24と26：14－16を読む。それから，イエスが幼い子供に抱いておられる愛について話す。

話し合いの一部として，「主の来られるとき」（『子供の歌集』46－47）を一緒に歌うとよい。

「そのとき，わたしは彼らを……集めよう」

3ニーファイ16章；20－21章

40

3ニーファイ16章，20章および21章には，イエス・キリストが復活の後ニーファイ人とともにおられた間に，ニーファイ人へ施された教えの一部が含まれている。これらの章で主は，末日の福音の回復とイスラエルの家の集合について教え，預言されている。

- イスラエルの家とは何でしょうか。（3ニーファイ16：4参照）。イスラエルの集合とは何でしょうか（3ニーファイ16：4，12；20：10－13参照）。
- イスラエルを集めるためにモルモン書はほかにどのような役目を果たしましたか（幾つかの例として，3ニーファイ16：4，12および20：10－13と1ニーファイ6：3－4およびモルモン書のタイトルページを比較する。教会員としてあなたにはイスラエルの集合に対してどのような責任があるでしょうか。

家族の話し合いのための提案

部屋の所々に物を置く。それから家族にそれらの物を集めてもらう。「集める」とは一緒にまとめるという意味であることを説明する。

家族がそれらの物を集めたら，3ニーファイ20：12－13を読む。天の御父は，世界中にいる御自身の民が「彼らを贖われた主な

る彼らの神を知る」ことにより，彼らを集めておられることを説明する。天の御父が御自身の民を集められる業を助けるため，個人で，また家族でできることを話し合う。

「あらゆることを彼らに説き明かされた」 41

3ニーファイ22－26章

- イエスはイザヤの預言を引用した後で，人々にこのように言われました。「あなたがたはこれらのことを調べなさい。」（3ニーファイ23：1）単に聖文を読むのではなく調べるということにはどのような意味があるのでしょうか。
- この記録に，モロナイはイエスが民に教えられたことの「ほんの一部」だけを載せました（3ニーファイ26：8）。わたしたちはどうすれば「大いなること」を受けることができるのでしょうか（3ニーファイ26：9参照）。
- 3ニーファイ26：19－21を読む。自分の結婚，家族，ワード，ステークで，わたしたちはこの模範にどのように従えますか。

家族の話し合いのための提案

イエスがニーファイ人とともにおられたとき，エリヤの使命に関するマラキの預言を伝えられたことを説明する（3ニーファイ25：1－6）。この教えは非常に重要なため，4つの標準聖典すべてに収められている。

家族で以下の聖句を読む。マラキ4：1－6；ルカ1：17；3ニーファイ25：1－6；教義と聖約2：1－3；ジョセフ・スミス―歴史1：37－39。各自の聖典のこれらの聖句に印を付けるよう提案するとよい。

これらの聖句が，家族歴史活動と神殿活動にどう関連するか話し合う。亡くなった先祖の名前を探求し，神殿の儀式のために提出する作業を一緒に行う計画をする。状況が許せば，神殿でともに奉仕するよう計画する。

「以上がわたしの福音である」 42

3ニーファイ27－30章；4ニーファイ

- イエスのニーファイ人の十二弟子たちは，主の教会をどう呼ぶべきか主に尋ねました（3ニーファイ27：3参照）。その望みに主は何と答えられましたか（3ニーファイ27：4－9参照）。主は末日に回復される主の教会にも，ニーファイ人の教会と同じように，主の名前を付けるように命じられました（教義と聖約115：4）。なぜ教会がイエス・キリストの名前で呼ばれるのを心に留めておくことが重要なのでしょうか。
- 生徒たちに，イエス・キリストの福音の様々な側面を調べるため，3ニーファイ27：13－22を研究する。救い主は主の福音に従って生きる人々にどのような約束をなさいましたか（3ニーファイ27：21－22参照）。
- 3人のニーファイ人の弟子たちの願いによって彼らの姿は変えられました。すなわち彼らの体は一時的に変えられて「神のものを見ることができる」ようになりました（3ニーファイ28：13－15）。それから彼らの身が変えられました。3ニーファイ28章の説明は，身が変わることについて何を教えていますか。
- ニーファイ人がイエス・キリストの訪れ

を受けてから長年の間，「何々人とか言われる者」は存在しませんでした（4ニーファイ1：17）。これはどういう意味でしょうか（4ニーファイ1：2－3，15－17参照）。民族間の差別によって現在どのような問題が存在していますか。違いを乗り越えて結ばれるために，福音はわたしたちをどのように導いていますか。

家族の話し合いのための提案

4ニーファイを一緒に読む。1－19節を読む際，平和と幸福がもたらされたときの姿勢と行いの一覧を作成する。そして20－46節を読む際は，争いと滅びを招いたときの姿勢と行いの一覧を作成する。

作成した一覧を比較する。4ニーファイ1：1－19で述べられているような人々にさらに近づくために家族でできることを話す。

「あなたがたはどうして主の道から離れてしまったのか」 43

モルモン1－6章；モロナイ9章

- モルモンが15歳のとき，彼は「主の訪れを受け，イエスの慈しみを味わって知」りました（モルモン1：15）。わたしたちはイエスの慈しみをどのようにして知るようになれるでしょうか。
- モルモンの存命中ニーファイ人の社会はどのような状況でしたか（モルモン1：19；2：1，8，10，18参照）。わたしたちはモルモンのように多くの悪が満ちる時代に生活していますが，わたしたちの信仰と個人の義を保つために何ができるでしょうか。
- モルモンは民がレーマン人と戦って勝ったとき，「これまで彼らの命を助け……てこられたのが主であることを，彼らは悟っていなかった」と言いました（モルモン3：3）。自分たちの受けている祝福が主によるものであると知ることはなぜ重要なのでしょうか。
- モルモン5：17－18を読む。船が帆や錨のないままのように救い主に従わない民とはどのような人のことでしょうか。あなたにとって，福音はどのような点で帆や錨と似ているでしょうか。

家族の話し合いのための提案

モルモン1：13－14と2：18を家族で読む。それからモルモン1：15と2：19を読む。わたしたちは周囲が邪悪に満ちているときでも，主の慈しみを知ることができる。もしモルモンのように主に従い，自らの福音の証に忠実であろうと努めるなら，わたしたちが「終わりの日に高く上げられる」という教えに，希望を見いだすことができる（モルモン2：19）。

「わたしはあなたがたがここにいるかのように語っている」 44

モルモン7－9章

モルモン7－9章を研究する際，これらの章の教えはすべて末日に生きる人々への指示であることを心に留める。

- モロナイはモルモン書が現れるときの世の状態についてどのように預言したでしょうか（モルモン8：26－33参照）。なぜモロナイは末日についてそのように明確に預言することができたのでしょうか（モルモン8：34－35参照）。
- モロナイは末日の高慢について何と言ったでしょうか（モルモン8：36－41参照）。
- モロナイは，終わりの日に主は「奇跡の

神ではない」（モルモン9：10）と信じる人が出て来ると語りました。だれかに，主は奇跡の神ではないと言われたら，あなたはどのように答えますか。主は奇跡の神であるという証を適切に述べることができた経験としてどのようなものがありますか。

家族の話し合いのための提案

モロナイ8：34－35を家族で読む。それから，一人一人に未来の家族（子供，孫，おい，めいなど）にあてて手紙を書いてもらう。その際，「〔未来の家族が〕ここにいるかのように」書いてもらう。手紙には，未来の家族が直面するであろう試練を受けても，福音に従って生活する助けとなるような勧告を盛り込むよう提案する。また，書いた手紙は，将来読むことができるように，日記の中など，安全な場所に保存するとよい。

「あなたほど深くわたしを信じた者がいなかった」 45

エテル1－6章

- ヤレドの兄弟が船に光があるようにする方法を主に尋ねたとき，主はどのように答えられましたか（エテル2：23－25参照）。主に助けを求めるだけでなく，わたしたちのできるすべてを行うことはなぜ大切でしょうか。
- 主はヤレドの兄弟に御自身を現される前に，どのような質問をされたでしょうか（エテル3：11参照）。ヤレドの兄弟の答えは，彼の信仰の深さをどのように表しているでしょうか（エテル3：12参照）。彼の模範からあなたは何を学ぶことができますか。

家族の話し合いのための提案

エテル6：1－12を一緒に読む。約束の地へのヤレド人の旅が，わたしたちの人生の旅とどのように似ているか家族が分かるよう，以下の質問を活用する。

- 主は船の中の石を「暗闇の中で……輝くようにし」ました（エテル6：3）。主はどのような「光」をわたしたちに与えてこられましたか。
- ヤレド人は旅のために自分たちができる準備をすべて行った後で何をしましたか（エテル6：4参照）。わたしたちはこれと同じような信頼をどのようにして主へ示すことができるでしょうか。
- 風の中を進んでいるとき，ヤレド人は昼も夜も何をしていましたか（エテル6：8－9参照）。主に賛美をささげることができる方法には何があるでしょうか。
- ヤレド人が約束の地へ着いたとき，彼らは何をしましたか（エテル6：12参照）。これは，わたしたちが天の御父のもとへ戻ることとどのように似ているでしょうか。

「信仰によってすべてが成就する」 46

エテル7－15章

- エテルは神を信じる人をどのように描写していますか（エテル12：4参照）。信仰と希望はどのようにあなたの錨になるのでしょうか。信仰がどのようにして神に栄光を帰す良き業へと導いていくかを示す事例には，どのようなものがありますか。
- モロナイは信仰をどのように定義しましたか（エテル12：6参照）。あなたは「わたしたちの信仰が試されてからでなければ証は得られない」とは，どのような意

味だと思いますか。試練はどのようにあなたの信仰を強め，確かなものにしてきましたか。

- 主は，わたしたちが主のみ前に自らをへりくだらせ，主への信仰を持つならば，「〔わたしたちの〕弱さを強さに変え」てくださると教えられています（エテル12：27）。聖文の中で，自分の生活にあって，そしてほかの人々の生活において，この約束はどのようにかなえられていますか。

家族の話し合いのための提案

ハイラム・スミスが，自分と預言者ジョセフ・スミスが殉教する場所となったカーセージの監獄へ行く準備をしているとき，彼はエテル12：36－38を読んでそのページを折り返しました（教義と聖約135：4－5）。

- その聖句はどんな慰めを与えていますか。どのような聖句の言葉があなたを強めて慰めを与えてきましたか。

「彼らを正しい道にとどめるため」 47

モロナイ1－6章

- なぜモロナイ2－5章はわたしたちの時代において重要なのでしょうか。主の教会の異なった神権時代に同じ儀式があったことを知ることにより，あなたはどのように強められるでしょうか。
- 聖餐によってわたしたちはどのような聖約を交わしますか（モロナイ4：3；5：2参照）。その見返りとしてわたしたちが受ける約束は何でしょうか。敬虔に，かつふさわしい状態で聖餐にあずかっているとき，あなたはどのように感じますか。
- 人々がバプテスマを受け聖霊の賜物を受けた後，「人々は……キリストの教会の民の中に数えられ，その名が記録された」と教えています（モロナイ6：4）。なぜ彼らの名前は記録されたのでしょうか（モロナイ6：4参照）。どのようにして，教会員となって長い期間を経た人と新会員がともに，「覚えられ，神の善い言葉で養われ」るように見守るという教会の務めに貢献できるでしょうか。

家族の話し合いのための提案

家族が改宗したばかりであれば，教会に入った気持ちはどのようなものであったか話し合う。また，教会に入ってよかったこと，教会に入って直面した試練についても話し合ってもらう。家族が教会に入ってからの期間が長ければ，自分が初めて教会に来たとするとどのような気持ちを感じると思うか話してもらう。

ゴードン・Ｂ・ヒンクレー大管長の以下の勧告を家族の一人に読んでもらう。

「改宗者のますますの増加に伴い，わたしたちは，改宗者が道を見いだせるように助けるため，これまで以上に大きな努力を傾けなければなりません。改宗者のだれもが3つのものを必要としています。それは友人と責任と『神の善い言葉』（モロナイ6：4）による養いです。」（「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号，56）

- この勧告に従うためにわたしたちには何ができるでしょうか。

「キリストのもとに来……なさい」

モロナイ7－8章；10章

48

モロナイ7－8章にはモロナイの父であるモルモンの教えが含まれている。モロナイ10章には，モロナイの最後の証が記されている。

- モルモンは教会員について「キリストに穏やかに従〔う者たち〕」である，と言っています（モロナイ7：3）。モルモンは何に基づいて教会員をこのように判断したのでしょうか（モロナイ7：4－5参照）。わたしたちはどうすれば「キリストに穏やかに従〔う者たち〕」となれるでしょうか。

モロナイは「勧めとして〔の〕少しの言葉」で自らの記録を結んでいる（モロナイ10：2）。勧めるという言葉は，忠告，または強く主張することを意味している。モロナイ10章を研究する際，勧める，勧めたいという言葉が出てくる度に印を付けるとよい。本章におけるモロナイの勧めの意義と重要性について深く考える。

- モロナイは霊的な賜物について何と教えていますか（モロナイ10：8－19参照）。
- 「キリストのもとに来て」というモロナイの勧告は，モルモン書全体のメッセージをどのように言い表していますか（モロナイ10：30，32）。今年のモルモン書の学習は，あなたをキリストのもとへ導くうえで，具体的にどのような助けとなりましたか。

家族の話し合いのための提案

モルモン書について自分の証を述べ，家族にも同様に述べてもらう。それから，エズラ・タフト・ベンソン大管長の以下の説教を読む。

「現在，日曜学校やセミナリーでは4年ごとに，モルモン書について教えています。しかし，個人や家族のモルモン書の学習まで4年に1度のペースにしてしまってはいけません。モルモン書は『その教えを守ることにより，ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる』（*History of the Church*, 4：461）書物であり，わたしたちは毎日この書物を読まなければなりません。」（「モルモン書で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号，4）

家族に引き続きモルモン書を研究し，人々と分かち合うよう勧める。

末日聖徒
イエス・キリスト
教会